

市民と市役所が

ツナガル通信

発行日：平成 29 年 11 月 13 日

発行元：ESD・市民協働推進センター

岡山市役所本庁舎 2 階

月～金曜日、9:00～17:00

TEL：086-803-1062

070-5055-7589

Vol.29



CONTENTS

- *市民協働推進モデル事業
「ひと・まち・つくるプロジェクト」
- *市民協働推進モデル事業の動き！！
- *市民協働推進 Q&A

「わが町」ワークショップ参加してきました！！

平成 34 年度開館予定の「新しい文化芸術施設」が、多くの岡山市民の方々から共感と期待をもって迎えられよう、文化芸術による多様な市民参加の機会を創り出し、魅力ある創造的なまちづくりへの機運を高めていくプロジェクトがスタートしました。NPO 法人アートファームと岡山市文化振興課の協働による「ひと・まち・つくるプロジェクト ～新しい文化芸術施設を交流と創造のひろばに～」(平成 29 年度岡山市市民協働推進モデル事業)です。

本プロジェクトの A プログラム「わが町」ワークショップの第 1 回「まちの風景を組み立てよう！」が、9 月 30 日に開催されました。「新しい文化芸術施設」周辺の「まち歩き」を通じて、参加者それぞれが地域の魅力や資源を再発見しながら造形や身体表現を用いて劇場のある「わが町」を造りあげるワークショップです。美術家のカミイケタクヤさんを講師に迎え、地元商店の方、お坊さんなど多種多様な方 8 人が参加。普段は自転車等で通り過ぎていた道を、ゆっくり歩き、気になったり、目に留まったものを写真やイラストにしたり、地図にメモしました。「陶器店の招き猫が印象的」「看板の昔ながらのフォントは様々でおもしろい」「昔は映画館が多かったのだが。」等同じ道を歩いているのに感じ方は人それぞれで色々なまちの風景を思い描いていました。

A プログラムはこの取材後、「大きな地図」の創作を行い、来年 1 月 27 日(土)に西川アイプラザで発表します。また、1 月 13 日(土)からスタートする B プログラム「暮らしのスタイルを表現しよう！！」では、演出家の小野寺修二さんを講師に、「まち歩き」を通じて地域の風情や営みを知り身体を使って表現します。「わが町」ワークショップの詳細はこちら <http://www.okayama-tbox.jp/kyoudou/pages/12397>



街歩きワークショップ

ぜひ、みなさまもご参加ください！！

H29年度岡山市市民協働推進モデル事業の動き

☆建部中学生だっぴ：11 月 29 日(水)

建部の中学生と地域の大人とつながり一緒に考える場が開催！！

【主催：NPO 法人だっぴ 後援：岡山市教育委員会】 <http://dappi-okayama.com/>

☆操車場跡地にできる新公園を活用する市民の会：11 月の毎週土曜日 13:00～15:00

場所〈くらしのたね〉人々が関わることで育まれる都市の森となる新しい公園の活用を考えます！

【主催：くらしのたね 後援：岡山 ESD 推進協議会】 <http://www.kurashinotane.jp/event.html>

☆WASAOSPOT 「しゃべくりエイト」：11 月の毎週木曜(16:00～21:00) 土曜(10:00～15:00)
場所〈WASAOSPOT〉経験豊富な大学生スタッフと旬なテーマについて楽しく”しゃべくり”ませんか？

【主催：NPO 法人 YouthCreate・岡山市選挙管理委員会】 <https://www.facebook.com/wakamonookayama>

「協働」に関するQ&A ～ 協働の理解を深めよう！！～

ESD・市民協働推進センターには、市民や団体、市職員など多くの方が訪れます。その中で、よくあるご質問をとりあげ、この通信で一緒に考えたいと思います。

Q.事業を行う際に学生ボランティアにもっと参加してもらうには？

学生をもっと市民活動、地域活動に巻き込みたいというご相談は多いです。活動の中には、ボランティアの協力が無ければ行えないものも多く、学生に参加してほしいという声をよく聞きます。事業を行う前段階から、委員会や運営に携わってほしいとか、当日だけでも良いのでもっと来てもらいたいという声もあります。

平成22年度の学校基本調査によると岡山市は、人口10万人当たりの学生数が政令指定都市17都市の中で、5位となっています。市内には8つの大学があり、H27年度調べでは、短大や大学院を含めると約3万人の学生が岡山市内にいます。(高校は29校、約2万人の高校生がいます。合わせて5万人の学生が市内に!)この学生の力を、市民活動、地域活動に活かすことが出来れば、大きなパワーとなります。

メリットが明確

京都市市民活動総合センターが2010年に発行した「学生をもっと市民活動に呼び込む方法」という冊子によると、「学生がボランティア活動に参加したい理由」をアンケートに取ったところ、「新しい出会いや経験を得たい」「ものの見方や考え方を広めたい」という理由が多く、学生は、出会いや経験、自己成長を求めています。そのため、団体が目指していることや事業の必要性を伝える事と同時に学生にも得るものがあるとアピールすることが必要です。

「学生は、暇だろうからちょっと来てくれたらえんじやけど、なかなか興味をもってくれんよ。」と言われる方も中にはおられます。学生は、学内の講義だけでなく、課外活動の時間も増え、資格取得や短期留学、インターンシップなどの時間も増えています。想像しているより忙しいという学生の時間感覚を知ること、長期休みが短縮する中で参加しやすい時間を把握することも大切です。

学生は忙しい

口コミが大切

広報ツールにSNS (facebook、twitter、Instagram等)は、学生の目に触れる機会を増やすのに有効ですが、参加まで繋げることにもっとも有効なのは「口コミ」です。最初に参加した1人がチャンスです。面白いと思ってくれると次に仲間を連れてきてくれますが、面白くないと判断したらその周りの学生を巻き込むチャンスも消えてしまうかもしれません。子どもと接する機会のある事業の場合、教職員を目指す学生が多く参加し、先輩が後輩を連れてくることもよくあります。

スタッフに学生を呼びたいが、交通費に悩むという団体も多いです。自己負担でお願いしている場合がほとんどですが、参加費を集め交通費を一律同金額負担する方法も聞きます。学生が主体的に考え、学び、経験を得ることが出来る、アイデアが反映される場合、参加に対しての満足度が高くなり、交通費を払ってでも参加したいと思えるようになります。満足度を高めて学生の参加を進めましょう!

交通費を超える

大学生と繋がる大学の窓口!!

岡山大学	岡山大学地域総合研究センター (AGORA)	086-251-8491
岡山理科大学	学生課 (学生係)	086-256-8432
岡山商科大学	産学官連携センター	086-252-0642
山陽学園大学	ボランティア支援センター・社会サービスセンター	086-272-6254
就実大学	学生課	086-271-8130
中国学園大学	学生課	086-293-0849
ノートルダム清心女子大学	地域連携センター	086-252-7045